

既婚女性のレジャー行動分析

Analyzing the Leisure Activities of Married Women

粥川 道子 増山 尚美 山本 敬三
Michiko KAYUKAWA Naomi MASHIYAMA Keizo YAMAMOTO

I はじめに

著者らは、特定の地域や集団のレジャー行動傾向を明らかにすることを目的として一連の研究を行ってきた。調査方法には、Csikszentmihalyi と Larson¹⁾ によって開発された Experience Sampling Method (以下 ESM とする) を用いた。2001年の基礎研究の段階では、西野ら^{2) 3) 4)} の先行研究に基づき ESM によるレジャー行動調査項目の検討を行なった⁵⁾。2003年は、ESM 調査ツールの基礎研究としてポケットベルやアラーム機能つき腕時計、筆記具をとまなう ESM 調査書に替えて携帯電話のメール機能 (以下携帯メール) をアセスメントツールとし、その有効性を調査した。その結果、携帯メール機能を活用した ESM 調査方法は、ツールとしての機能性が高いことを報告した⁶⁾。2005年は、メールの送受信方法を改善し、大学生を対象に ESM によるレジャー行動調査を実施し、有効回答率82.5%を得た。これは、ツール改善前の調査⁶⁾ や先行研究^{1) 2) 3) 4) 5)} と比べ高い回答率を示し、調査ツールの妥当性と有用性が認められた⁷⁾。これらの予備調査を経て2006年から特定の地域や集団のレジャー行動傾向を明らかにすることを目的とした本調査に着手した。2006年の調査は、対象となる特定の地域と集団を北方圏と大学生に定め、改善後のアセスメントツールを用いて、ESM によるレジャー行動分析を行なった。また、北方圏の特徴のひとつである夏季と冬季の日照時間の違いに着目し、日照時間という外的環境要因が、日常行動やその活動時の気分、特にレジャー行動へ影響を及ぼすか否かを検証した。調査は、2005年12月と2006年6月に大学生を対象に同じ調査方法でレジャー行動調査を実施した。調査の結果として以下の3点を報告した⁸⁾。

1. 学生の気分やレジャー認識は、季節の違いより平日と週末とで差が大きい。
2. 学生のレジャー活動場所やレジャー活動をともにする人間関係は、平日と週末とで大きな変化はない。
3. 学生のレジャー活動内容は、平日より週末のほうが高い傾向にある。

II 研究の目的

本研究の目的は、北方圏に住む既婚女性のレジャー行動について検証することである。そのため、北方圏に住む既婚女性群と女子大学生群のレジャー行動調査を同時に実施し、2群

のレジャー行動の比較により以下の4点を検証する。

- 1 既婚女性と女子大学生がレジャー・レクリエーションと主観的に認識する活動・場所・同伴者の傾向と平日・週末の比較。
- 2 既婚女性と女子大学生の生活状況の平日・週末の比較。
- 3 既婚女性と女子大学生のレジャー・生きがい・ゆとり認識の平日・週末の比較。
- 4 上記の3点について既婚女性と女子大学生を比較し、北方圏に生活する既婚女性のレジャー行動について検証する。

III 研究の方法

携帯メールを活用した ESM 質問項目を作成し、送受信のコンピュータに被調査者への発信時間と被調査者の転送時間が記録されるように設定して、調査に臨んだ。

- 1 調査の対象・期間・携帯電話への呼び出し時間帯と回数

調査対象：北海道寿都郡K町在住既婚女性22名

北海道のA大学女子学生 19名

被調査者は、被調査者自身が携帯電話を持ち、日常的に携帯メールを使用していることが条件である。理由は、携帯メールを使用した ESM の調査であることから、携帯メールの文字入力時の入力ミス等、人的なトラブルを極力避けるためである。

調査期間：2007年10月23日（火）～29日（月）の7日間

携帯電話への呼び出し時間帯と回数：午前8時から午後10時までの間で1日7回。

- 2 ESM調査票（携帯メールの内容）とスケジュール票の内容

調査者には、ESM調査票にあたる携帯メールの内容とスケジュール票を調査前に配付し、質問項目についての説明等をおこなってから調査を開始した。スケジュール票には、1日の行動を振り返り必ずその日の就寝前に行動内容を記入するよう依頼し、調査終了後に回収した。

- 3 調査の実施事前準備

- (1)送受信の設定

送信メールは1日7回実施した。2時間毎の間に被調査者にランダムにメールが送信できるようプログラムを作成し、自動的に送信するシステムを構築した。

- (2)被調査者への調査に対する説明とスケジュール票の配付

被調査者へは、ESMによる調査法の概説と返信メールの返信方法ならびにスケジュール票の記入方法について資料をもとに説明した。また、長時間メールが送信されてこない等のトラブルが生じた場合は、ただちに実験者に同じ携帯電話を使用して電話または、メールでその事実を伝えるよう指示した。同時に被調査者のメールアドレスをコンピュータに入力した。次にこれらのメールにテストメールを発信し被調査者からは、回答メールを返

信してもらった。被調査者からの返信が正常であることを確認した後、本調査を実施した。

4 データのコード化

(1) レジャー・レクリエーション経験認識スコアの採用とコード化

ひとがある活動をしている最中に、その活動を主観的にレジャー・レクリエーション経験と捉えるか、非レジャー・レクリエーション経験と捉えるかを測る方法として、レジャー経験認識スコアを用いた。

(2) 5段階のリッカート尺度化された回答については、1～5までの素点を用いた。

5 検定方法

検定は、 χ^2 検定を用いた。いずれも有意水準を0.05とした。

6 スクリーニング

(1) 有効回答の総回数が7日間で50%未満の調査者のデータはすべて用いない。

(2) 送信後2時間以後に転送されたデータは用いない。

(3) 回答内容が著しく不自然なデータは用いない。

7 スケジュール票の回収と個人面接

スケジュール票の回収は、調査終了の翌日からの2日間。被調査者が、直接調査者へ提出した。その際、調査者より個々の被調査者に対して本調査に関する聞き取りを行った。

IV 結果と考察

1 回収率

(1) 返信時間毎の回収件数

被調査者41名（既婚女性22名，女子学生 19名），スクリーニングの結果まず3名のデータを削除し，38名（既婚女性21名，女子学生 17名）を対象とした。全送信件数1,862件のうち，有効回収件数は1,644件（回収率88.3%），であった。

(2) 累積回収率

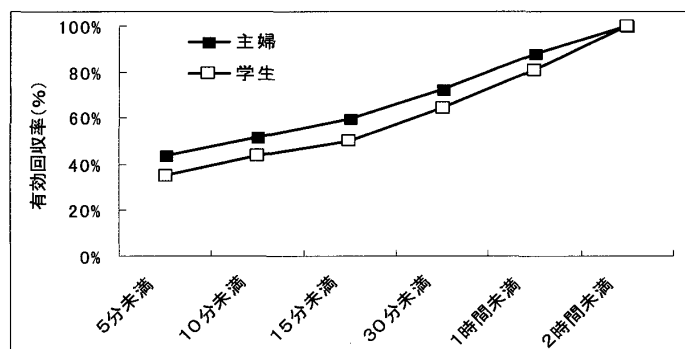


図1 時間毎の累積回収率

既婚女性群と学生群の返信時間による回収率を比べたところ5分未満では44.5%－35.1%，10分未満では54.6%－43.6%，15分未満では59.5%－47.8%と高い値でほぼ同じ傾向を示した（図1）。

(3) 調査日毎の有効回収率

学生群の日毎の有効回収率は、調査機関の後半に低下し、最終日の7日目には前日より回復した。既婚女性群は、学生群に比べ全調査期間において高い回収率を維持した(図2)。

(4) 調査日毎の回収率

(時間帯別)

学生の平日と週末の回答率には $p < 0.05$ 水準で有意差がみられた。時間帯では、金曜日の夜が59.4%で最も低く、次いで土曜日の朝の68.8%であった(図4)。スケジュール票から、回収率の低い金曜日の夜の活動内容は「アルバイト」、「友人と遊ぶ」土曜日の朝は「睡眠」が主であった。調査期間中の土曜日

の起床時間の平均は調査対象者の既婚女性群は6時40分、学生群は8時40分であった(図3)。

既婚女性の平日と週末の回答率には $p < 0.05$ 水準で有意差がみられた。時間帯では、日曜日の午前中が68.8%で最も低く、次いで日曜日の昼84.4%であった(図4)。スケジュール票から、回収率の低い日曜日の朝の活動内容は「家事(食事づくり, 洗濯, 掃除)」, 日曜日の昼は「中学校のバザー参加」と「家事(買い物, 食事づくり)」が主であった。

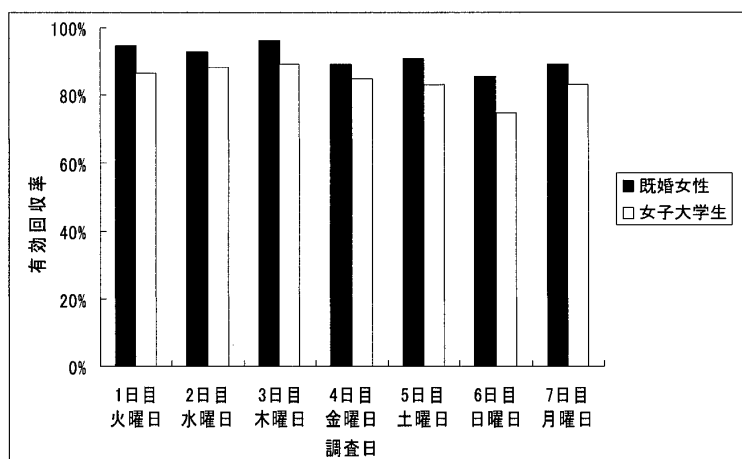


図2 調査日毎の回収率

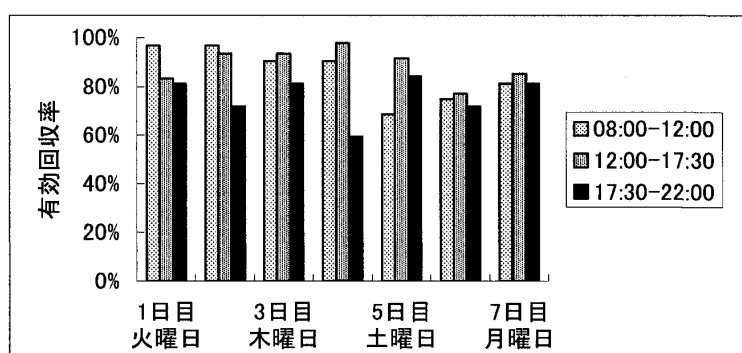


図3 調査日時毎の回収率 (学生)

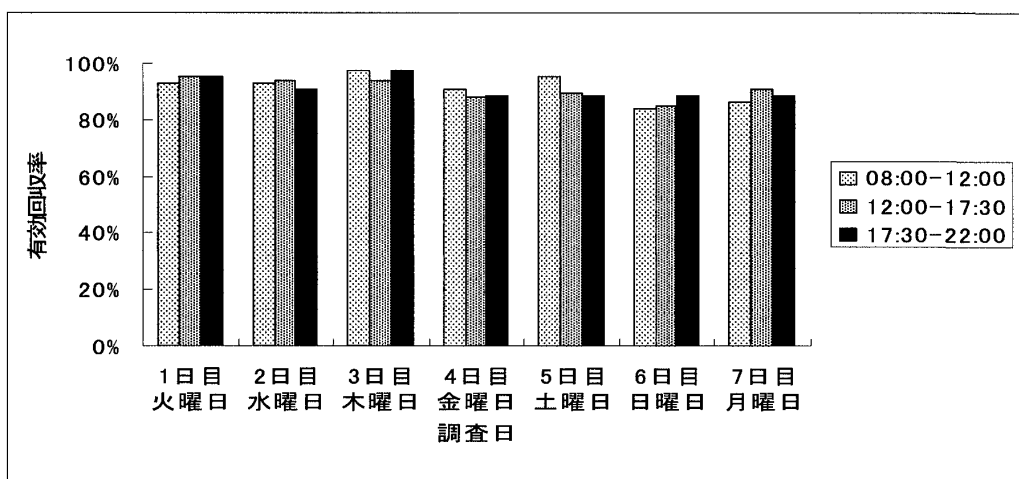


図4 調査日時毎の回収率 (既婚女性)

2 既婚女性における活動の種類・場所・同伴者の傾向とレジャー・レクリエーション経験認識
 活動の種類・場所・同伴者ごとに平日（月曜～金曜）と週末（土曜・日曜）の件数および、レジャー・レクリエーション認識の平均値を求めた。「それはレジャー・レクだと考えますか？それとも別のものと考えますか？（5段階）」という質問項目に、「レジャー・レクリエーションだと考える」を1点、「別のものとする」を5点として5段階で回答を得た数値を反転させ、1点から3点未満を「レジャー・レクリエーションとしての認識が高くない」、3点以上5点までを「レジャー・レクリエーションとしての認識が高い」とした。また、女子大学生との比較を行った。

(1)活動場所

①件数

既婚女性における活動場所について7日間のデータは計981件であった。平日、週末ともに「自宅」の比率が高く、平日491件（69.2%）、週末172件（63.5%）であった（図5）。「自宅」について多かった平日の活動場所は「勤務・アルバイト先」58件（8.2%）、「移動中」51件（7.2%）「その他」48件（6.8%）、「商業施設」28件（3.9%）の順に多く、週末では「移動」33件（12.2%）、「商業施設」24件（8.9%）の順であった（表1）。「その他」の場所として、町内の公共施設や自宅付近の屋外、保育園送迎等子どもに関わる外出の記載が見られた（表2）。

②活動場所によるレジャー・レクリエーション認識

レジャー・レクリエーション認識が中心値の3点を超えたのは週末の「学校」3.50（4件）、「知人・友人宅」3.25（8件）、「商業施設」3.08（24件）のみであった。平日では「商業施設」2.64（28件）が最も高い値だった。反対にレジャー・レクリエーションとしての認識が特に低かったのは、平日1.6、週末1.0の「病院」、平日1.6の「出張・実習先」であった。レジャー値が高かった週末の「学校」ではバザーが行われており、平日の「学校」は1.5（12件）で低かった（表1）。

表1 既婚女性における活動場所別レジャー経験認識

		7日間			平日			週末		
		n	レジャー 値平均	%	n	レジャー 値平均	%	n	レジャー 値平均	%
場 所	自宅	663	1.78	67.6	491	1.77	69.2	172	1.81	63.5
	知人・友人宅	20	2.70	2.0	12	2.33	1.7	8	3.25	3.0
	学校	16	2.00	1.6	12	1.50	1.7	4	3.50	1.5
	商業施設	52	2.85	5.3	28	2.64	3.9	24	3.08	8.9
	勤務・アルバイト先	65	1.26	6.6	58	1.26	8.2	7	1.29	2.6
	移動	84	2.35	8.6	51	1.94	7.2	33	2.97	12.2
	病院	6	1.50	0.6	5	1.60	0.7	1	1.00	0.4
	出張・実習先	5	1.60	0.5	5	1.60	0.7	0	0.00	0.0
	その他	70	2.61	7.1	48	2.52	6.8	22	2.82	8.1
	総計	981	1.93		710	1.83		271	2.20	

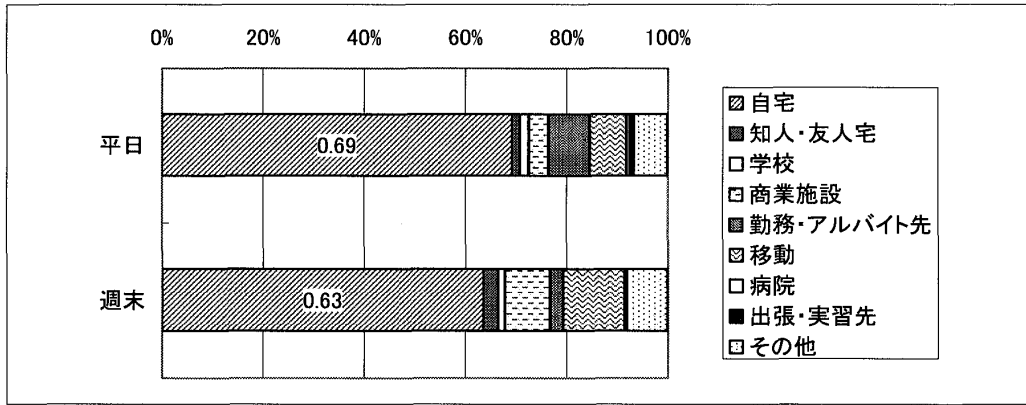


図5 既婚女性における活動場所の平日週末比較

表2 「その他」で記載のあった活動場所

平日	週末
実家（9件）、親族の家、祖母の家、隣（3件）、回覧配布、外、公共施設（8件）、情報館（5件）、図書館（4件）、体育館（3件）、町民センター（3件）、保健福祉センター（2件）、保健センター、会館（2件）、団地の会館、児童福祉施設、牧場見学（3件）、保育園（2件）、保育園にお迎え、寺院、温泉、お稽古の先生宅	実家（5件）、隣の家の前（3件）、外、川沿い、公共施設（3件）、Y町民会館、町民公民館、町民センター、バザー会場、児童福祉施設、図書館、区民体育館

(2)既婚女性における活動内容

活動内容は「必需行動」、「自由行動」、「拘束行動」の3つに分類されたあと、個別の活動が選択された。7日間970件のうち、割合が多かった順に「拘束行動」432件（44.5%）、「自由行動」379件（39.1%）、「必需行動」159件（16.4%）であった。女子大生との間に有意な差が見られた（図6）。

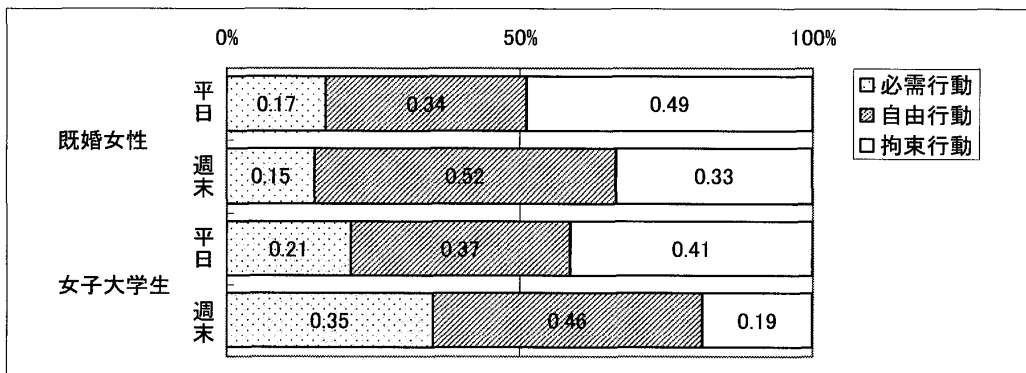


図6 既婚女性と女子大学生における活動内容の比較

①活動内容別件数とレジャー認識

a) 必需行動

「必需行動」の内容は、多い順に「食事」102件（60.4%）、「入浴・身じたく」33件（19.5%）、「睡眠」29件（17.2%）、「その他」4件（2.4%）、「療養」1件（0.6%）であった。レジャー認識はレジャー値の平均が1.7で低かった。

b) 自由行動

「自由行動」の内容は、多い順に「対面会話」83件（21.4%）、「マスメディア接触」81件（20.9%）、「休息」75件（19.3%）、「その他」33件（8.5%）、「趣味・娯楽」31件（8.0%）の順であった。レジャー認識は2.6で他の行動より高かったが、3未満であった。

c) 拘束行動

「拘束行動」の内容は多い順に「炊事」154（35.8%）、「その他」87件（20.2%）、「就労」81件（18.8%）、「掃除」39件（9.1%）、「買い物」31件（7.2%）、「洗濯」27件（6.3%）の順であった。レジャー認識は1.4で一番低かった。

② 活動内容における平日と週末による差

平日は「拘束行動」週末は「自由行動」の割合がほぼ半分を占め一番高くなっている。拘束行動における内訳を比較すると、週末のほうが「炊事」「就労」の割合が減少し、「その他」が増加している（図7）。その他の内容には子供の世話や行事にかかわる内容の記述が見られ、学校や保育園が休みの日に子どもに関する時間が増加している。レジャー認識

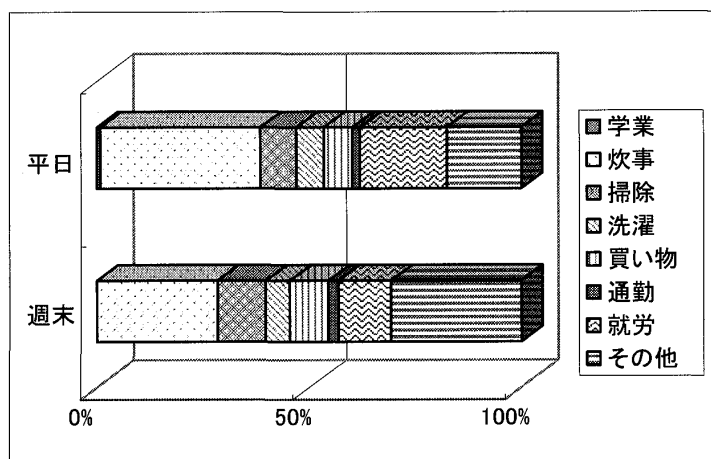


図7 既婚女性 拘束行動における内訳の平日週末比較

については全ての行動で週末の方が高い値を示し、「拘束行動」において有意な差が認められた。

表3 既婚女性における活動内容とレジャー・レクリエーション認識

内容		レジャー値					件数合計	平日/週末毎に占める割合	レジャー値平均	平日と週末の差
		1	2	3	4	5				
必需行動	平日	79	12	17	6	5	119	16.9%	1.706	
	週末	25	5	7	2	1	40	15.0%	1.725	
	計	104	17	24	8	6	159	16.4%	1.711	
自由行動	平日	103	28	39	32	40	242	34.4%	2.496	
	週末	48	18	23	24	24	137	51.5%	2.693	
	計	151	46	62	56	64	379	39.1%	2.567	
拘束行動	平日	259	51	20	9	4	343	48.7%	1.391	*]
	週末	62	13	7	1	6	89	33.5%	1.607	
	計	321	64	27	10	10	432	44.5%	1.435	

(3) 同伴者と活動者数

① 同伴者別件数

平日、週末ともに「家族・親戚」が6割以上を占めた。

複数回答で7日間1,145件のうち最も多かったのは「家族・親戚」378件（59.4%）で、以下「1人」165件（14.4%）、「友人」の117件（10.2%）、「職場の人」68件（5.9%）、「知らない人」

66件 (5.8%), 「その他」 32件 (2.8%), 「教師・指導者・上司」 17件 (1.5%) であった。

②同伴者によるレジャー・レクリエーション認識

レジャー値が3点を越えたのは週末の「その他」 3.43 (7件) のみであった。「1人」を除く全ての項目で週末のほうが平日よりレジャー値が高かった (表4)。「その他」「職場の人」「家族・親戚」において、平日と週末のレジャー認識に有意な差がみられた。

表4 既婚女性における同伴者とレジャー・レクリエーション認識

内容		レジャー値					件数	%	平均	平日と週末の差
		1	2	3	4	5				
1 1人	平日	96	16	9	8	10	139	18.1	1.71	
	週末	18	5	2	1		26	8.0	1.46	
2 家族・親戚	平日	278	59	61	37	35	470	61.1	1.92	*
	週末	100	27	34	23	26	210	64.2	2.28	
3 友人	平日	12	4	5	10	7	38	4.9	2.89	
	週末	11	4	3	9	6	33	10.1	2.85	
4 教師・指導者・上司	平日	7	1	1	1		10	1.3	1.60	
	週末	2	2	1	0	2	7	2.1	2.71	
5 職場の人	平日	40	5	4	2	1	52	6.8	1.44	*
	週末	7	2	1	3	3	16	4.9	2.56	
6 知らない人	平日	25	3	2	4	4	38	4.9	1.92	
	週末	13	3	2	3	7	28	8.6	2.57	
7 その他	平日	14	7	1			22	2.9	1.41	**
	週末	1	0	2	3	1	7	2.1	3.43	
合計	平日	472	95	83	62	57	769		1.88	
	週末	152	43	45	42	45	327		2.34	

「職場の人」と「教師・指導者・上司」は平日では低く、週末では高くなる傾向が顕著であった (図8)。

③一緒に活動していた人数 (活動者数) の件数

一緒に活動していた人数 (活動者数) は、7日間979件のうち多い順に「2-5人」 544件 (55.6%), 「1人」 335件 (34.2%), 「11-50人」 56件 (5.7%), 「6-10人」 37件 (3.8%), 「51人以上」 7件 (0.7%) であった (表5)。

④一緒に活動していた人数とレジャー認識

レジャー認識と活動者数との間に有意な差は認められなかった。

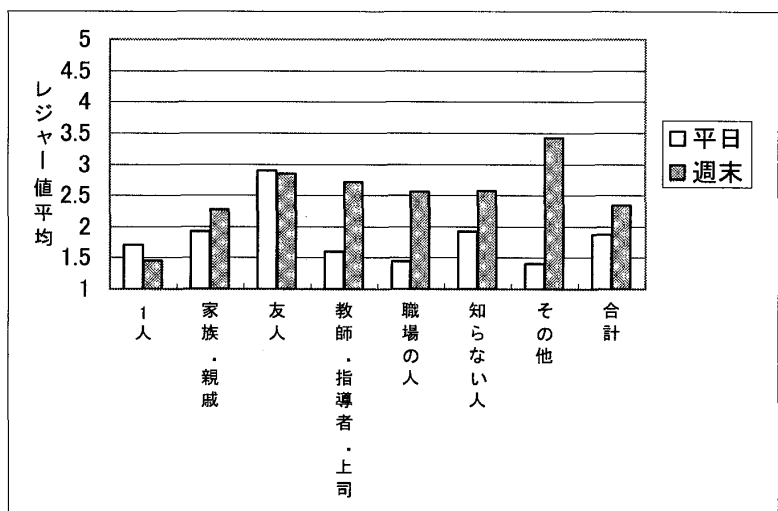


図8 既婚女性動における同伴者別レジャー認識

表5 一緒に活動していた人数とレジャー認識

活動者数	7日間の 件数		レジャー値					件数	%
			1	2	3	4	5		
1人	335 34.2%	平日	191	36	19	9	12	267	37.7
		週末	50	8	5	3	2	68	25.1
2-5人	544 55.6%	平日	217	45	55	37	30	384	54.2
		週末	73	23	28	15	21	160	59.0
6-10人	37 3.8%	平日	10	3	3	1	1	18	2.5
		週末	6		3	7	3	19	7.0
11-50人	56 5.7%	平日	24	3	2	2	6	37	5.2
		週末	6	4	1	3	5	19	7.0
51人以上	7 0.7%	平日	1	1				2	0.3
		週末	2	1	1		1	5	1.8
計	979	平日	443	88	79	49	49	708	
		週末	137	36	38	28	32	271	

(4) 既婚女性における気分

①項目ごとの値

「安心-不安」「緊張-リラックス」「満足-不満足」「退屈-わくわく」「おだやか-いらいら」「幸せ-不幸せ」「のんびり-せわしない」「嫌な-好きな」「どんより-さわやか」「自由-束縛」の10項目を下線でしめたポジティブの側が5点、ネガティブの側が1点になるように修正し平均値と標準偏差を比較した(表6)。7日間の平均値はポジティブな気分の高かった順に「安心-不安」3.88,「幸せ-不幸せ」3.79,「満足-不満足」3.70,「リラックス-緊張」3.69,「おだやか-いらいら」3.67,「好きな-嫌な」3.46,「自由-束縛」3.37,「さわやか-どんより」3.32,「のんびり-せわしない」3.25であった(表6)。

表6 気分の値の平均および平日/週末比較

既婚女性		安心～不安	リラックス～緊張	満足～不満足	わくわく～退屈	おだやか～いらいら	幸せ～不幸せ	のんびり～せわしない	好きな～嫌な	さわやか～どんより	自由～束縛
件数	7日	981	982	973	981	982	980	980	976	982	980
	平日	709	710	705	711	710	709	711	706	710	709
	休日	272	272	268	270	272	271	269	270	272	271
平均	7日	3.88	3.69	3.70	3.23	3.67	3.79	3.25	3.46	3.29	3.37
	平日	3.88	3.69	3.73	3.25	3.68	3.79	3.18	3.48	3.32	3.37
	休日	3.88	3.71	3.62	3.17	3.63	3.77	3.42	3.40	3.21	3.35
標準偏差	7日	1.00	1.18	1.07	0.83	1.16	1.15	1.32	1.13	0.97	1.34
	平日	1.03	1.20	1.04	0.81	1.15	1.22	1.35	1.13	0.99	1.35
	休日	0.94	1.10	1.16	0.86	1.20	0.92	1.22	1.13	0.92	1.32
平日/週末差							*				
女子大学生		安心～不安	リラックス～緊張	満足～不満足	わくわく～退屈	おだやか～いらいら	幸せ～不幸せ	のんびり～せわしない	好きな～嫌な	さわやか～どんより	自由～束縛
件数	7日	659	660	653	661	657	657	660	659	660	658
	平日	482	484	477	484	481	481	483	482	484	482
	休日	177	176	176	177	176	176	177	177	176	176
平均	7日	3.78	3.72	3.47	2.92	3.50	3.50	3.58	3.32	3.23	3.71
	平日	3.73	3.67	3.38	2.85	3.37	3.37	3.56	3.15	3.13	3.55
	休日	3.93	3.84	3.74	3.10	3.86	3.86	3.63	3.79	3.52	4.14
標準偏差	7日	1.26	1.33	1.24	1.23	1.12	1.12	1.36	1.27	1.28	1.48
	平日	1.29	1.34	1.24	1.21	1.11	1.11	1.36	1.27	1.31	1.53
	休日	1.18	1.29	1.18	1.29	1.07	1.07	1.38	1.17	1.18	1.23

①平日と週末比較

「のんびり－せわしない」において週末のほうが「のんびり」の傾向がやや強く平日と週末で有意な差がみられた。それ以外の項目は平日の方がポジティブな傾向が若干高いものもあったが、有意な差は認められなかった。

② 既婚女性と女子大学生との比較

全ての項目において有意な差がみとめられた。10項目中「満足－不満足」「わくわく－退屈」「幸せ－不幸せ」「好きな－嫌な」の4項目で既婚女性のほうが若干ポジティブな傾向が高かった。「のんびり－せわしない」「自由－束縛」は女子大学生のほうが高かった(図9)。

(5)既婚女性における状況の傾向

「忙しい－ひま」「活動的－静的」について下線側を5点とする5段階で回答を得た。

平日と週末を比較すると平日のほうが「忙しい」「活動的」の傾向が強く、有意な差がみられた(図10)。

既婚女性のほうが女子大学生より、「忙しく」「活動的」な傾向が見られた。又、既婚女性は「ひま」「静的」の方がレジャー値が高く、女子大学生と対比的な傾向が見られた(図11)。

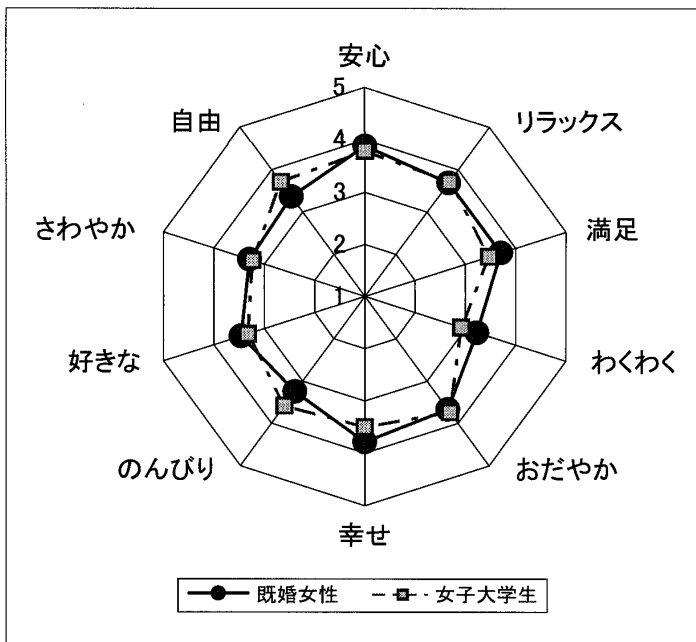


図9 既婚女性と女子大学生の気分の比較

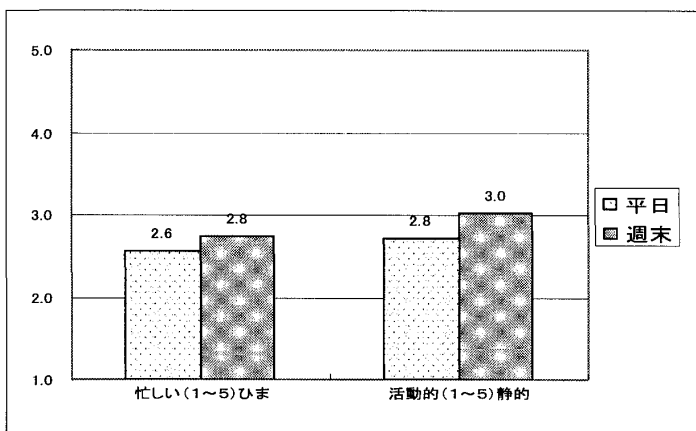


図10 既婚女性における状況の平日と週末比較

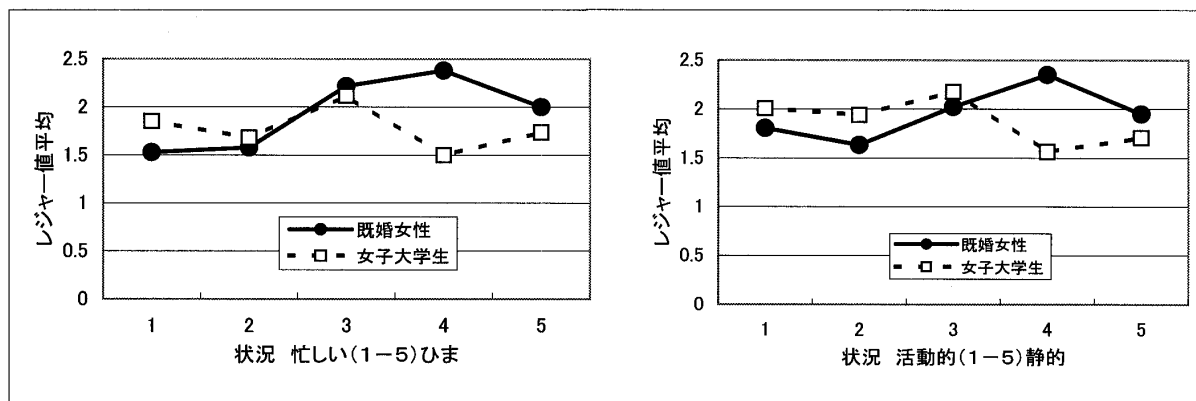


図11 状況とレジャー認識

(6)既婚女性における体調

「体調はいかがでしたか」という設問項目に非常に良いを5点、非常に悪いを1点として5段階で回答を得た。5段階の平均値と標準偏差は7日間3.34 (SD1.38), 平日3.4 (1.38), 週末3.17 (1.03)であった。平日の方がやや「良く」、休日の方が良い女子大学生と反対の傾向を示した。

(7)既婚女性における活動に対する意識や態度

1)「その活動をもっと続けたかったですか」という設問に、「続けたい」を5点、「やめたい」を1点として5段階で回答を得た。平均値と標準偏差は7日間3.35 (SD1.13), 平日3.36 (1.13), 週末3.32 (1.15)であった。

2)「それは自分で選んだ活動でしたか?それともするように求められた活動でしたか?」という設問に、「自分で選んだ」を5点、「求められた」を1点として5段階で回答を得た。平均値と標準偏差は7日間3.6 (SD1.44), 平日3.57 (1.44), 週末3.69 (1.36)であった。

3)「それをどれくらい真剣にやっていましたか?」という設問に、「真剣」を5点、「真剣でない」を1点として5段階で回答を得た。平均値と標準偏差は7日間3.65 (SD1.06), 平日3.69 (1.06), 週末3.55 (1.02)であった。

4)「それをすることは、あなたにとって簡単なことでしたか?それともチャレンジが必要でしたか?」という設問に、「簡単」を1点、「チャレンジが必要」を5点として5段階で回答を得た。平均値と標準偏差は7日間1.96 (SD1.07), 平日1.92 (1.07), 週末2.08 (1.11)であった。

(8)既婚女性におけるレジャー・生きがい・ゆとりの認識

1)「それはレジャー・レクリエーションだと考えますか?それとも別のものと考えますか?」という設問に「レジャー・レクリエーション」を5点、「レジャー・レクリエーションとは別」を1点として5段階で回答を得た。平均値と標準偏差は7日間1.93 (SD 1.33), 平日1.83 (SD 1.33), 週末2.2 (SD 1.45)であった。

2)「それは、生きがいだと考えますか?それとも別のものと考えますか?」という設問に「生きがい」は5点、「いきがいは別」を1点として5段階で回答を得た。平均値と標準偏差は7日間2.76 (SD1.39), 平日2.74 (1.39), 週末2.84 (1.4)であった。

3)「それは、あなたにゆとりを与えたと思いますか?それとも別だと考えますか?」という設問に「ゆとり」を5点、「ゆとりとは別」を1点として5段階で回答を得た。平均値と標準偏差は7日間2.98 (SD1.5), 平日2.93 (1.5), 週末3.1 (1.48)であった。

表8 設問ごとの平日と週末および既婚女性と女子大学生との比較

	全体	N		全体		平日		週末		
		平日	週末	平均	S D	平均	S D	平均	S D	
Q 5. 体調はいかがでしたか 非常に良い(5-1)非常に悪い										
既婚女性	983	711	272	3.31	1	3.36	1	3.17	1.03	
女子大生	661	484	177	3.26	1.24	3.18	1.23	3.5	1.27	
Q 6. その生活をもっと続けたかったか 続けたい(5-1)やめたい										
既婚女性	982	710	272	3.35	1.13	3.36	1.13	3.32	1.15	
女子大生	661	484	177	3.22	1.43	3.07	1.45	3.64	1.29	
Q 7. それは自分で選んだ活動でしたか?それともするように求められた活動でしたか 自分で選んだ(5-1)求められた										
既婚女性	983	711	272	3.6	1.44	3.57	1.44	3.69	1.36	
女子大生	661	484	177	4.25	1.18	4.21	1.23	4.35	1.05	
Q 8. それをどのくらい真剣にやっていましたか 真剣(5-1)真剣でない										
既婚女性	980	709	271	3.65	1.06	3.69	1.06	3.55	1.02	
女子大生	660	483	177	3.41	1.25	3.35	1.27	3.57	1.2	
Q 9. それをすることは、あなたにとって簡単なことでしたか?それともチャレンジが必要でしたか チャレンジが必要(5-1)簡単										
既婚女性	983	711	272	1.96	1.07	1.92	1.07	2.08	1.11	
女子大生	661	484	177	2.03	1.29	2.06	1.32	1.94	1.2	
Q10. それはレジャー・レクだと考えますか?それとも別のものと考えますか レジャー・レク(5-1)レジャー・レクとは別										
既婚女性	982	711	271	1.93	1.33	1.83	1.33	2.2	1.45	
女子大生	661	484	177	1.82	1.27	1.74	1.19	2.06	1.43	
Q11. それは、生きがいだと考えますか?それとも別のものと考えますか 生きがい(5-1)生きがいとは別										
既婚女性	980	710	270	2.76	1.39	2.74	1.39	2.84	1.4	
女子大生	661	484	177	2.53	1.49	2.38	1.44	2.94	1.54	
Q12. それは、あなたにゆとりを与えたと考えますか?それとも別だと考えますか ゆとり(5-1)ゆとりとは別										
既婚女性	983	711	272	2.98	1.5	2.93	1.5	3.1	1.48	
女子大生	660	484	176	2.9	1.58	2.79	1.59	3.23	1.53	

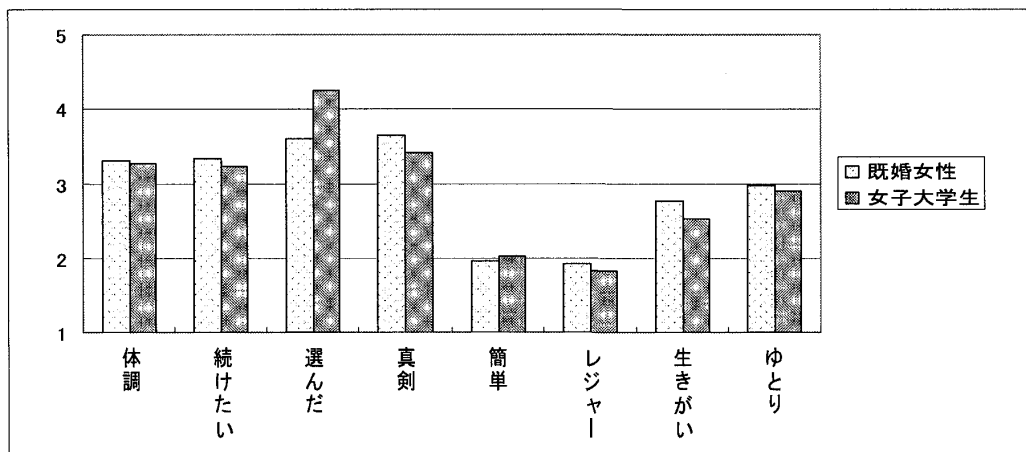


図12 設問ごとの値 既婚女性と女子大学生比較

IV まとめ

既婚女性における活動場所の中心は平日と週末ともに「自宅」が6割以上を占めている。平日、週末に関わらずほとんどの時間を自宅中心に町内で過ごしている。活動内容の割合は、平日は「拘束行動」、週末は「自由行動」がほぼ半分を占め一番高くなっていた。レジャー認識については全ての行動で週末の方が高い値を示し、「拘束行動」において平日・週末の差が見られた。同伴者は平日週末ともに「家族・親戚」が6割以上を占めている。活動人数は平日と週末ともに「2-5人」が5~6割を占め、ついで多かった「1人」と合わせると1日の9割程度を家族中心に過ごす傾向がうかがわれる。

平日と週末とで活動場所や同伴者の比率が大きく変化しないにもかかわらずレジャー認識に差が見られた理由は、週末に「自由行動」の割合が高くなっており活動内容がレジャー認識に影響を与えたと考えられる。

気分について週末に「のんびり」の値が高くなっていたのは、家族が在宅していても出勤や登校といった時間の制約が少ないためか、日曜日は朝・昼の時間帯の回収率が有意に低いことから「せわしない」時間には返信できないためデータとして現れなかったためか限定できなかった。家庭で多くの時間を過ごす既婚女性は、自分の時間が少なく単調な生活をしているイメージがあるが、実際には「自由」を感じている女子大学生より「わくわく」「満足」の値が高くポジティブな気分でいることがわかった。状況については平日の方が「忙しい」「活動的」で、女子大学生よりも既婚女性のほうが「忙しい」「活動的」な傾向が見られた。

参考文献

- 1) Mihaly Csikszentmihalyi, Reed Larson: Validity and Reliability of the Experience Sampling Method. The Journal of Nervous Mental Disease, Vol 175 No.9 pp526-536 1987
- 2) 西野仁：経験標本抽出法 (ESM) を用いた日常生活におけるレジャー行動研究の試み レジャー・レクリエーション研究 第38号 pp1-15 1998年
- 3) 西野仁：日本人のレジャーの捉え方に関する研究の試み その1 レジャー・レクリエーション研究 第34号 pp34-35 1996年
- 4) 知念嘉史：日本人のレジャーの捉え方に関する研究の試み その2 レジャー・レクリエーション研究 第34号 pp36-37 1996年
- 5) 粥川道子, 増山尚美：レジャー行動分析の為のアセスメントツールに関する研究 北海道浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要 第3号 pp35-46 2003年
- 6) 粥川道子, 大関慎, 増山尚美：レジャー行動分析の為のアセスメントツールに関する研究 (2) 北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要 第7号 pp45-57 2004年
- 7) 粥川道子, 増山尚美, 山本敬三：経験標本抽出方による大学生のレジャー行動分析の試み (1) 浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要 第6号 pp35-46 2006年

- 8) 彌川道子, 増山尚美, 山本敬三：経験標本抽出方による大学生のレジャー行動分析 浅井
学園大学生涯学習システム学部研究紀要 第7号 pp25-38 2007年